

かあらり版

唐津街道姪浜まちづくり協議会

第七号

平成二十六年三月三十一日
発行元

唐津街道姪浜まちづくり協議会
唐津街道姪浜景観つくり委員会
事務局：福岡市西区姪の浜三丁目三二七
マイヅル味噌内

※かわら版第七号は、福岡県共助社会づくり基金からの助成金を活用して発行しております。

姪浜と私

川岡保(会長)

私は昭和22年12月に姪浜町小戸で産声を上げました。物心がついたのは小学校5年生、その頃、小戸から唐津街道を通り、姪浜小学校まで通っていました。恐竜の背のような早良炭鉱のボタ山が小戸と豊浜に二つそびえていて、お風呂を焚く燃料にボタを拾いに行き、くすぶるボタを手でつかみ火傷をしたことや、ボタ山の頂上から竹で編んだ「ショーケ」に乗り、転んで怪我をした記憶があります。

当時は今と違い、パソコン、ゲーム機器、携帯電話等は無く、子どもの遊びは外で遊ぶことぐらいでした。夏場には住吉神社の「カッパ祭」と「夏越祭」に参加し、提灯を片手に「ゴロゴロ曳き」を経験するなど住吉神社が友達との交流の場所でした。

50歳代半ばになり、その頃の時代を懐かしく思い、平成14年に郷土写真集「姪浜とその周辺」私たちが育った町々を姪友会から出版したところ、3ヶ月で完売、その後、皆さま方のご要望で平成18年に「姪浜を愛する会」から改訂版を出版しました。

今後も、地域の皆さま方とともに「住んで良し、訪れて楽しいまち・姪浜」の実現に向けて、活動を進めていきたいと思っています。

◆太田博一(景観まちづくり部会長)

姪浜にはここにしかないという宝がたくさんあります。お寺や神社、町家、旧街道の町並み、路地、祭り、神話の時代からの物語や歴史、海に関わる食べ物……教え上げると切りがありません。

私は姪浜の出身ですが、現在は大阪に住んでいます。姪浜を出て40年ほどになりますが、時を経るにしたがつて、あるいはいろいろなまちを訪れるにつけて、宝の多いまちに育ったことを再認識させられ誇りに思います。しかし、まちの宝や伝統はそのまま放っておくと錆びたり朽ちたりして、最後には消滅してしまいます。



歴史案内で見えた方々から「姪浜は炭鉱のイメージしかなかったが、面白いまちですね」と言われることをしばしば耳にします。これからも数多くの方へ「姪浜」を知っていただくべく、唐津街道姪浜まちづくり協議会に協力させていただきます。何度でも足を運びたいと思えます。ご発展をお祈りします。

◆大塚政徳(事務局長)

平成17年3月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となりました。姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けました。しかし、「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初の最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2年後にまちづくり協議会を立ち上げました。私が49歳の時です。



それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていたながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がありませんでした。それからは今までの20年間を取り戻すかのように、「姪浜の宝を福岡市民の宝に！」を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただきました。今はやりの二刀流ではありませんが、今後も「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたいと思っています。

◆原義弘(西区歴史よかとこ案内人「あこめの会」代表)

唐津街道姪浜まちづくり協議会と私は、「西区歴史よかとこ案内人」のボランティアに参加してからの付き合い合いです。その中で「姪浜」を勉強させていただき、神功皇后伝説、金印、元寇、炭鉱の話などと合わせ、近代マンションが建ち並ぶまち・姪浜が大好きになりました。ボランティアガイドで年に数回姪浜を案内していますが、その都度新しい発見があります。まだまだ知らないことがあるかもしれません。

この中で、今回のトピックを紹介します。まずは、関係者の皆さま方のご協力を得て、ガイドツアーのオプションとして初めて姪浜魚市場をコースに組み込みました。福岡市内に魚市場があるのは、長浜と姪浜だけです。競りの様子を見学していただきましたが、新鮮な魚が水揚げされる港町・姪浜の良さを実感していただけたことと思います。また、子どももまちなみ探検隊も初めての試みでしたが、歴史ある寺社、昔ながらの町家、迷路のような路地、そして蒲鉾や削り節の試食というような姪浜ならではの内容に、



灯明コンサート



みそ蔵特別公開



みそ蔵コンサート

- 住吉神社での幻想的な「灯明コンサート」
- マイヅル味噌の閉店前に多くの方々にその歴史と魅力を知っていただきたいと企画した「みそ蔵特別公開」
- 姪浜がロケの現場となった高倉健さん主演の映画「網走番外地」悪への挑戦「上映会」みそ蔵シネマ
- 地域のイベントとしてすっかり定着した「みそ蔵コンサート」
- 姪浜の魅力スポットを巡る「景観歴史発掘ガイドツアー」
- 小学生を対象とした「子どもまちなみ探検隊」

メッセージ



「唐津街道姪浜まちづくり協議会」会長の川岡です。昨年は、NPO日本都市計画家協会の「日本まちづくり大賞」、福岡県の「ふくおか共助社会づくり表彰」(公財)あしたの日本を創る協会の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」の三つの公的な賞を受賞するなど、大変嬉しい一年になりました。私たちは、こうした賞を今後の活動の大きな励みとしながら、「町並みや地域コミュニティの再生」「賑わいのある商店街づくり」「身の丈に合ったおもてなしの観光交流の実践」など、具体的に目に見える形でまちづくりの効果を示していきたいと考えています。

そのためには、地域の総力を結集して、姪浜ならではの地域資源を活かしたまちづくりに取り組む必要があります。どうか地域の皆さま方も「姪浜の宝を福岡市民の宝に！」の実現に向けて、共に知恵を出し、汗を流していきましょう。

平成二十五年活動報告

(1) 『とっておきの姪浜!』

昨年の10月から11月にかけて『とっておきの姪浜!』と銘打って、次のような姪浜ならではの多彩な「こだわり」おもてなしのイベントを実施しました。地域内外から多くの皆さまにご参加いただき、姪浜の魅力を伝えることができたと思います。

参加した子どもたちは興味津々で大満足のようでした。まち歩き後に俳句を詠んでもらいましたが、子どもたちの感性の高さに驚かされました。例えば「ソロゾロと歩く細道、メイロはま」今晩のビールのつまみはカマボコと歴史のかほりビバ姪の浜などです。いかがでしょうか。次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいですね。



子どもまちなみ探検隊 魚市場の競り見学

(2) 続・子どもたちを対象にしたイベント

昨秋の「子どもまちなみ探検隊」が好評だったこともあり、2月8日に西日本新聞社「姪浜ビィキ」共催で「姪浜の玉手箱」ナゾ解きウォークラリーを実施しました。姪浜には、一年中飾られている注連縄、住吉神社のカッパの像など「これ何?」と疑問に思うようなナゾが多くありますが、今回は「ナゾを解き明かしながら、姪浜を探検してゴールを目指す」ものです。ナゾを解くとご褒美(仲西商店の削り節、岡村屋のレモンケーキ等)をもらえるポイントもあり、ゲームのように楽しみながら地域のことを学べる内容でした。

また、魚嘉の蒲鉾を使った燻製づくりの体験、そして昨年いっばいで長い歴史に幕をおろしたマイヅル味噌の味噌を使った豚汁のふるまひもありました。参加した子どもたちも大いに満足した様子でした。保護者の皆さまにも好評で、今後も協議会のイベントとして定着させていきたいと考えています。

また、3月1日に景観回遊路に面した光福寺の塀の落書き消しを行いました。ここはガイドツアーで毎回案内するお薦めのコースですが、落書きが酷く、何とかきれいにさせていただきたいとご住職に申し入れ、快諾を得て実施したものです。

ここでも子どもたちに参加する場を設け、塗装作業に関わっていただきました。最初は慣れない手つきで緊張していましたが、次第にうまく塗れるようになっていきました。協議会スタッフも作業に加わり、最後は職人さんにきれいに仕上げてくださいました。大人も子どもも一緒に作業し、絆を深め楽しい一日を過ごすことができました。こうした活動は、子どもたちがまちの歴史や魅力を知り、楽しみ、その価値を継承していくことや我がまちに誇りを持つことにもつながり、また、まちを訪れる人たちの楽しみも深まることと確信しています。



before



after

【平成二十五年活動報告】 (3) まちなみフォーラム福岡・唐津街道姪浜

これは、3月29日に福岡県内で町並み等の地域遺産の保存継承に取り組み団体「まちなみネットワーク福岡」と共同で実施したものです。午前中のまち歩きイベント「歴史散策と桜の名所巡り」には小雨の中、約50名の皆さまに参加いただき、寺社、町家、路地、姪浜ブランド店等を巡りました。桜の名所である光福寺、方正寺等の満開の桜に参加者は大いに魅了されました。



また、午後からは「まちなみ保存継承のこれから」というテーマで、福津市津屋崎、飯塚市内野宿など県内各地で町並みの保存継承に取り組んでいる4地域の取り組みを報告していただき、これを基に活発な意見交換を行いました。少子高齢化の進行に伴う空き家の増加によるコミュニティの維持の深刻さや、伝統的家を修理する技術・技能者の育成等が大きな課題となっている中で、会場の皆さま方と地域遺産を活かしたまちづくりの方向性や、その戦略と実践方策について考えました。姪浜の景観づくりのヒントもたくさんいただき、今後に役立てていきたいと思っております。

『景観づくり計画』の策定

(1) 景観づくり計画ステップ2

景観づくり委員会は平成23年10月に活動を開始し、その成果として24年6月に「景観づくり計画ステップ1」の策定し、地域への報告会を行いました。その後25年3月に再開し、自治協議会や商店会、姪浜の関係者、町家所有者、九州大学大学院生等に参加していただき、9回の委員会と3回のまち歩きワークショップを行いました。その成果として3月末に「景観づくり計画ステップ2」を策定したものです。



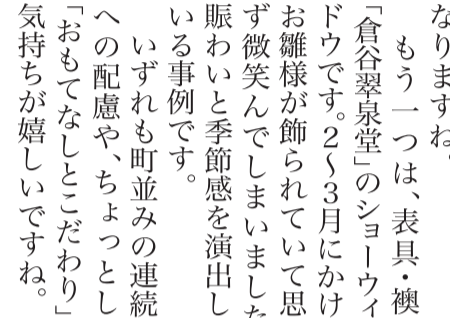
この計画では、景観づくりのエリアや方向性について、姪浜固有の地域資源を活かした景観づくりを浸透させ展開していくため、「景観づくりと並行して進めるべき実践活動」や「景観づくり推進組織」についても提案しています。今後、概要版を作成して地域への出前発表会等を行う予定です。



KOKOROBİ



倉谷翠泉堂



オオカミの口

もう一つは、表具・襖店「倉谷翠泉堂」のショーウィンドウです。2〜3月にかけてお雛様が飾られていて思わず微笑んでしまいました。賑わいと季節感を演出している事例です。

いづれも町並みの連続性への配慮や、ちよつとした「おもてなしとこだわり」の気持ち嬉しいですね。

(2) 姪浜景観まちづくり宣言

また、景観づくり計画が示す姪浜の景観づくりの方向性をわかりやすく示し、地域の皆さま方と共有するため、「姪浜景観まちづくり宣言」を行いました。この宣言を踏まえ平成26年度からは、地域の関係団体や住民の皆さま方との更なる協力と幅広い参加をいただきながら、より詳細な計画を策定するとともに、具体的な景観づくりを実践していきたいと考えています。

■ 姪浜景観まちづくり宣言の骨子

- 姪浜ならではの多彩な歴史や文化を活かした景観づくりを進めよう
- 地域の貴重な財産である町家を現代的視点で再評価し、積極的に活用しよう
- 新しい建物や駐車場も町並みの向上に貢献するよう景観づくりの工夫をしよう
- 景観づくりを住みやすさ・暮らしやすさや商店街の賑わい創出につなげよう
- 子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりをしよう

姪浜・景観づくり事例集

今号から地域の町並み形成に貢献している事例を紹介していきます。今回は古い町家の一部をリノベーションしたカフェ「オオカミの口」と、町家のデザイン要素を尊重しつつ、新たな感覚で路地の楽しさやわくわく感を生み出している美容室「KOKOROBİ」です。ともに築100年を超える建物の再生・活用事例で、応援したくなります。

姪浜・町並み今昔



昭和16年の町並み



現在の町並み

今回は豊浜、愛宕浜付近の町並みの変遷です。上の写真は昭和6年のものですが、炭鉱町の名残は今も感じられます。姪浜と聞いて炭鉱町を思い浮かべる方は少ないと思います。本場に海辺の風景は変わりました。

「あじたのまち」活動賞の受賞

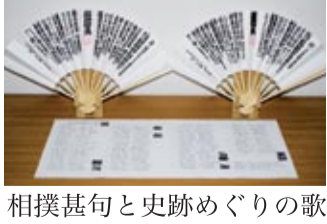
昨年11月、「公財」あじたの日本を創る協会が主催する「あじたのまち」活動賞を受賞しました。この賞は、全国各地で様々なテーマで地域活動に取り組んでいる団体の中から先進的・先駆的な活動を顕彰するものです。平成25年度は、全国各地から254件の応募があり、36件が受賞、当協議会は振興奨励賞をいただきました。当協議会のテーマは、10月に受賞した二つの賞と同じ「姪浜の宝を福岡市民の宝に！歴史的環境を活かした地域協働の町並み形成と地域づくり推進活動」で、多彩な地域資源を活かした、これまでの7年間の地道な取り組みが評価されたものです。



「あじたのまち」地域からの贈り物

昨秋三つの栄えある賞をいただき、マスコミに大きく取り上げられたこともあり、地域の皆さま方から嬉しい贈り物をいただきました。その中から、二つを紹介させていただきます。まずは、豊浜二丁目在住で相撲甚句をされている小松正隆様から、相撲甚句を通じて姪浜のまちづくりに協力したいというお話をいただきました。歴史散策マップや現地取材をもとに「姪浜の名所旧跡」及び「三賞受賞」に関する甚句を作ってください、3月8日の「受賞記念祝賀会」で披露していただきました。お祝いの席に相応しい歌で、出席された皆さま方も大変感激されていました。

もう一つは、姪の浜六丁目在住の方から、昨年12月に「姪の浜史跡めぐりの歌」を作ってくださいました。私たちのふるさと、姪の浜への熱い想いの込められた歌で37番まであります。当協議会では、作者の了解を得て、まちづくり活動に広く活用させていただきたいと考えています。



相撲甚句と史跡めぐりの歌



相撲甚句の披露

「あじたのまち」姪浜町家等の認定

3月29日、地域の貴重な財産として、地域の町並み形成に寄与している町家6軒を新たに「姪浜町家」として認定させていただきます。また、地域の畳屋さん、表具・襖屋さんとして親しまれている「緒方畳店」さん、「倉谷翠泉堂」さんを「姪浜ブランドのお店」として認定させていただきます。これで認定させていただいた町家は累計26件、ブランド店は14件になります。認定した町家やお店の所有者には、当協議会から手づくりの認定プレートを贈呈させていただきました。姪浜には残していきたい町家や、姪浜ならではの思い出がたくさんあります。今後も「姪浜ブランドづくり」の一環として、こうした活動を続けていく予定です。



事務局長通信

地域づくりはまさしく喜怒哀楽の世界です。喜びや楽しみはみんな共有できますが、怒りや哀しみはあまり外に出さずに胸の内にとどめておくようにしています。このところ、様々な事情で古い町家を取り壊されたり、伝統あるお店が閉店されるなど、辛いと感じることも多いですが、その一方で姪浜の魅力や相撲甚句や史跡めぐりの歌にいただいたなど、地域の皆さま方の温かい気持ちをいただいていることに感謝しております。皆さま方からいただいた気持ちは、まずは10倍の気持ちでお返しし、それが地域の皆さま方に戻っていく時にはその10倍、つまり当初いただいた気持ちから100倍にして地域に返していきたいと思っております。具体的には「姪浜の魅力」として地域内外に広くPRしていきます。昨年「倍返し」という言葉が流行しましたが、姪浜の倍返しは「気持ちの100倍返し」です。今後も、嬉しいことも辛いこともすべてプラスのエネルギーに変えて、姪浜ならではのまちづくりの実現に向けて辛抱強く取り組んでいきたいと考えています。どうか皆さま方のご支援、ご協力、そして何よりも地域づくりへの積極的なご参加をお願いいたします。「どうかご支援 ヨーホホイ アー願いますヨ」(大)